

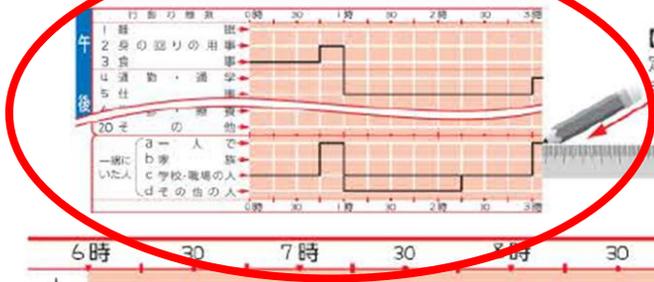
# 孤立無業（SNEP）の再検討

－総務省統計局『社会生活基本調査』（2016年）特別集計－

玄田 有史

2018年3月

# 総務省統計局「社会生活基本調査」2016年調査票の一部



【線の引き方】  
定規を用いて白線のところに  
まっすぐ記入してください

10月   日 ( 曜日 )

07

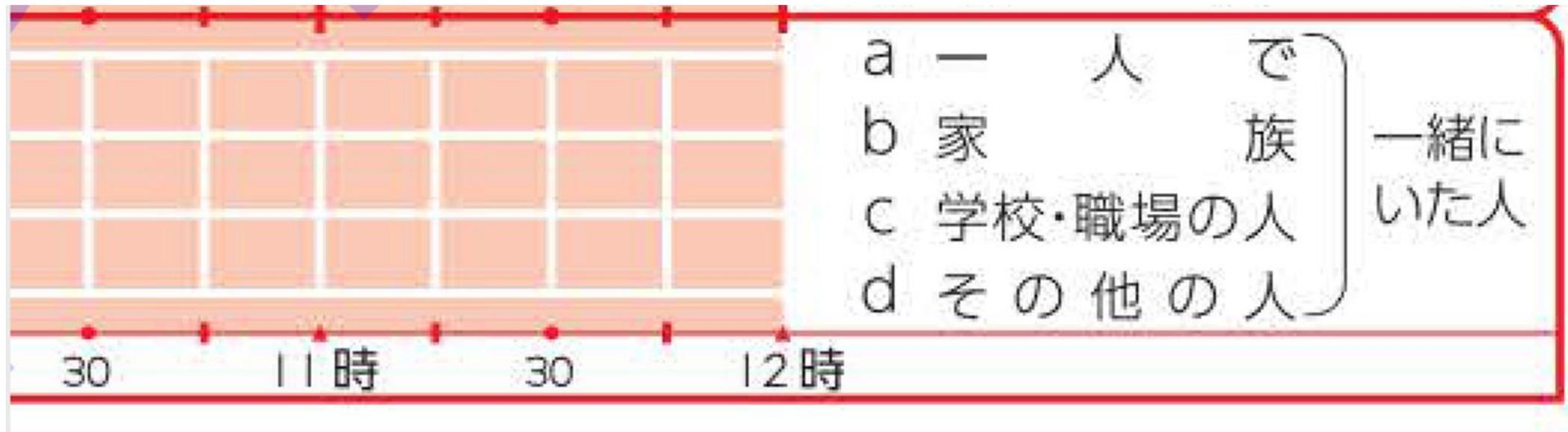
【第1日】

2016年10月15  
~23日の連続2  
日をランダム  
に指定

6時		30	7時	30	8時	30	9時	30	10時	30	11時	30	12時	行動の種類	
1														1 睡	眠
2														2 身の回りの用	事
3														3 食	事
4														4 通 勤 ・ 通	学
5														5 仕	事
6														6 学	業
7														7 家	事
8														8 介 護 ・ 看	護
9														9 育	児
10														10 買	物
11														11 移動(通勤・通学を除く)	
12														12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	
13														13 休 養 ・ く つ ろ ぎ	
14														14 学習・自己啓発・訓練(学業以外)	
15														15 趣 味 ・ 娯 楽	
16														16 ス ポ ー ツ	
17														17 ボランティア活動・社会参加活動	
18														18 交 際 ・ つ き あ い	
19														19 受 診 ・ 療 養	
20														20 そ の 他	
a														a 一 人 で	一緒に いた人
b														b 家 族	
c														c 学校・職場の人	
d														d その他の人	
	6時	30	7時	30	8時	30	9時	30	10時	30	11時	30	12時		

行動の種類  
(20項目)を15  
分単位で記入

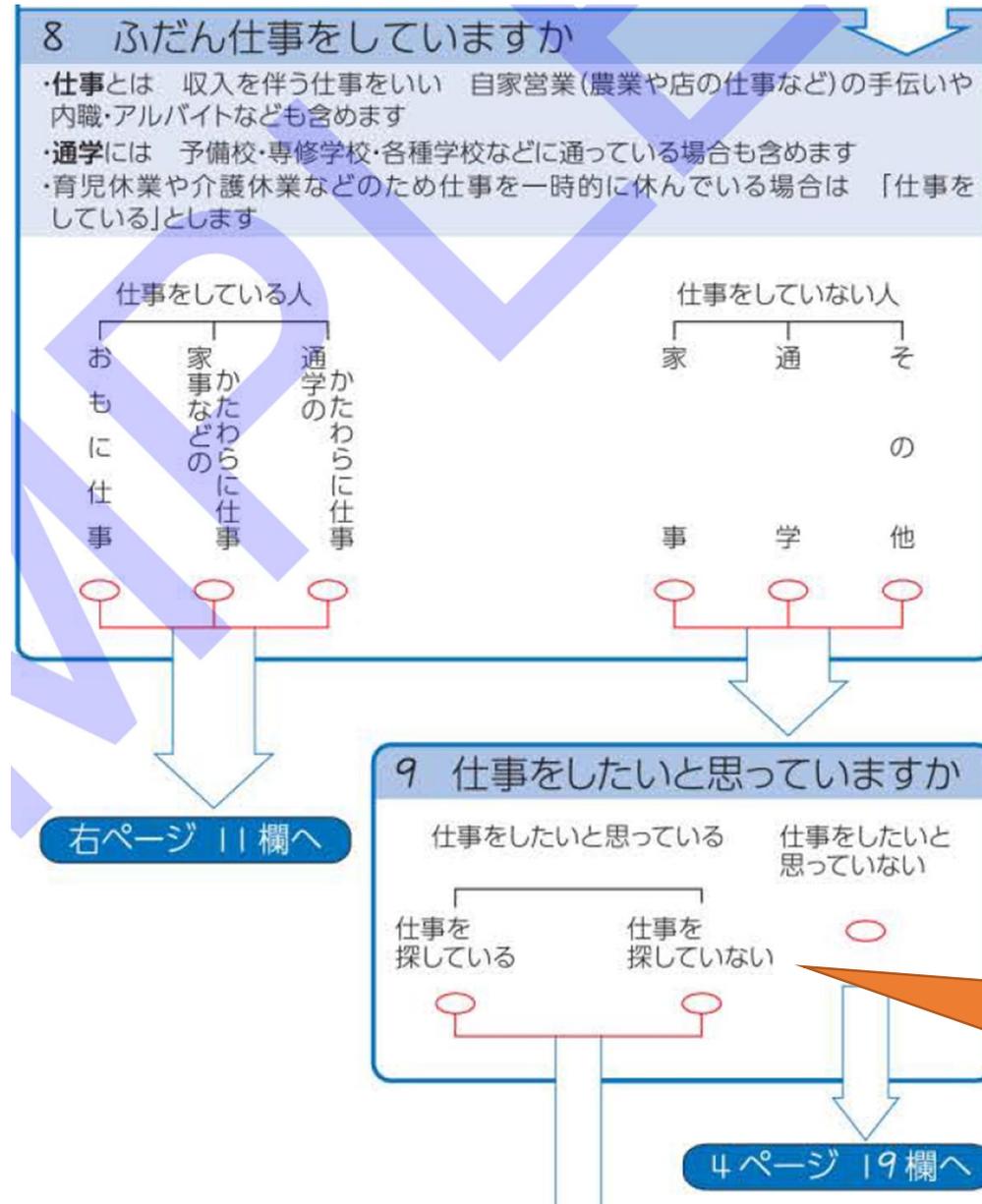
行動に伴い一緒  
にいた人も同時  
に記入



連続2日48時間を通じて誰とも交流のなかった人々の状況を把握することが可能

いわゆる「ひきこもり」に関する調査ではない。しかし、それに類する状況を回答者は比較的ストレス少なく回答することが可能。

# 調査票には就業に関する項目も豊富に含まれる。



求職活動をしていなかったり、就業希望を持っていないなど、ニート状態との関連も把握可能

## 孤立無業 (Solitary Non-Employed Persons: SNEP)等に関する定義

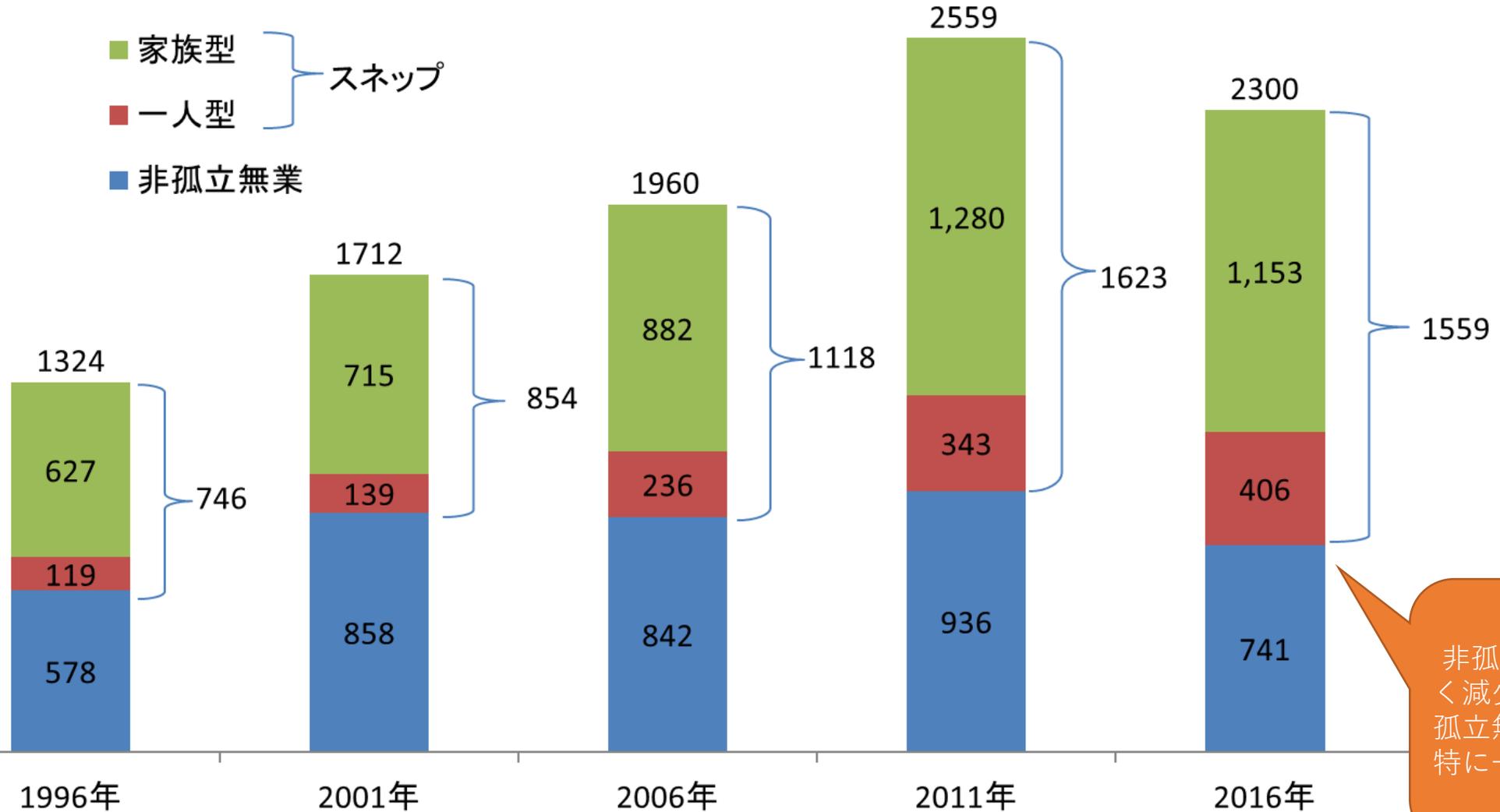
孤立無業	20歳以上59歳以下の在学中を除く未婚無業者のうち、 <u>ふだんずっと一人か一緒にいる人が家族以外いない人々を「孤立無業」と定義する</u> （「ふだん」の状況としてランダムに指定された連続2日間に着目する）。
家族型孤立無業	孤立無業のうち、 <u>家族といっしょにいた時間を有する人々を「家族型孤立無業」と定義する。</u>
一人型孤立無業	孤立無業のうち、 <u>ずっと一人でいた人々を「一人型孤立無業」と定義する。</u>
非孤立無業	20歳以上59歳以下の在学中を除く未婚無業者で、孤立無業以外の人々を「非孤立無業」と定義する。

注：総務省『社会生活基本調査』のうち、生活時間編が未記入であった人々は除く。無業は、生活行動編における、ふだん仕事をしていない人のうち「家事」もしくは「その他」を選択した人々（したがって予備校、専修学校、各種学校に通っている場合も含まない）。ふだんが無業の目安は、一年間に30日未満程度しか働いていない状態。「いっしょにいる」とは、普通に会話ができる程度の距離にいる場合を指す。年齢は、10月20日時点の満年齢（ただし10月生まれはすべて誕生日を迎えたものとして集計上取り扱っている）。調査は10月中の9日間のうち、連続する2日間が選定されている。

# 60歳未満未婚無業者数の推移(千人)

20～59歳の未婚無業者(在学中を除く)

- 家族型
  - 一人型
  - 非孤立無業
- スナップ



非孤立無業が大きく減少する一方で、孤立無業は横ばい。特に一人型が増加。

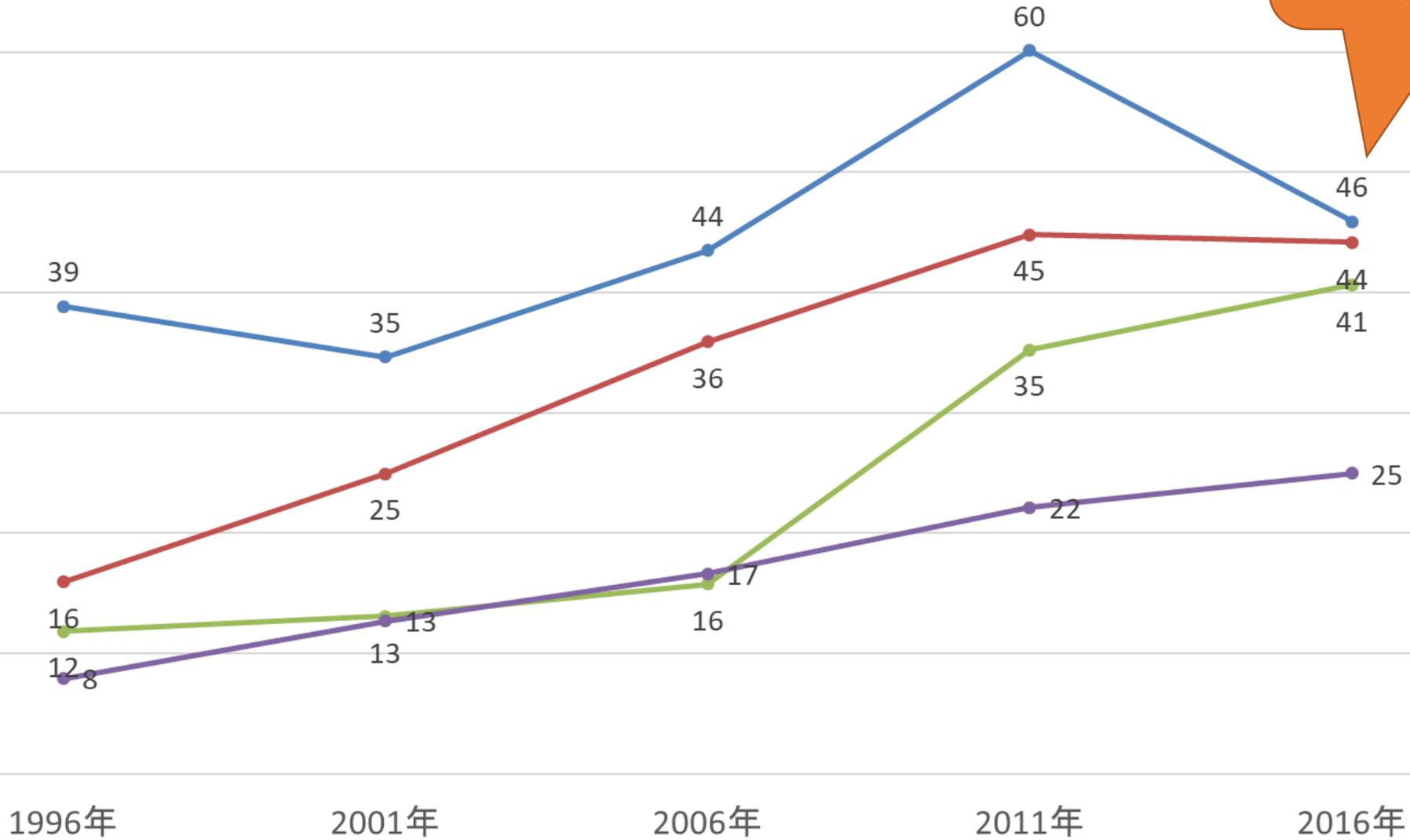
総務省統計局「社会生活基本調査」特別集計。以下の図表もすべて同様。

		推計人口(千人)	孤立無業 (千人)	孤立無業者が 占める割合	うち過去一年間にスポーツ、旅行、 ボランティアを一切しなかった人々	
					人口(千人)	孤立無業に 占める割合
分析対象	未婚無業(在学中を除く20~59歳)	2,300	1,559	67.8%	483	31.0%
分析対象外	無業全体(年齢・婚姻歴の制限無、在 学中含む)	39,891	21,025	52.7%	5,090	24.2%
	既婚無業(20~59歳)	5,798	3,795	65.5%	353	9.3%
	離婚・死別無業(20~59歳)	514	308	59.9%	123	39.9%
	60歳以上無業	25,040	14,459	57.7%	4,001	27.7%
	10代または在学中無業	6,302	926	14.7%	129	13.9%

20~59歳未婚無業者は、その他の無業者に比べても、孤立化する割合は相対的に高い。さらに一年を通じてスポーツ、旅行、ボランティアなどの行動も限定的となる傾向が存在。

年齢階層別孤立無業者数の推移(万人)

● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代



2011年から16年にかけて  
20代が大きく減少する一方、  
30代はほぼ横ばい、  
40代と50代のSNEPが  
増加する傾向。

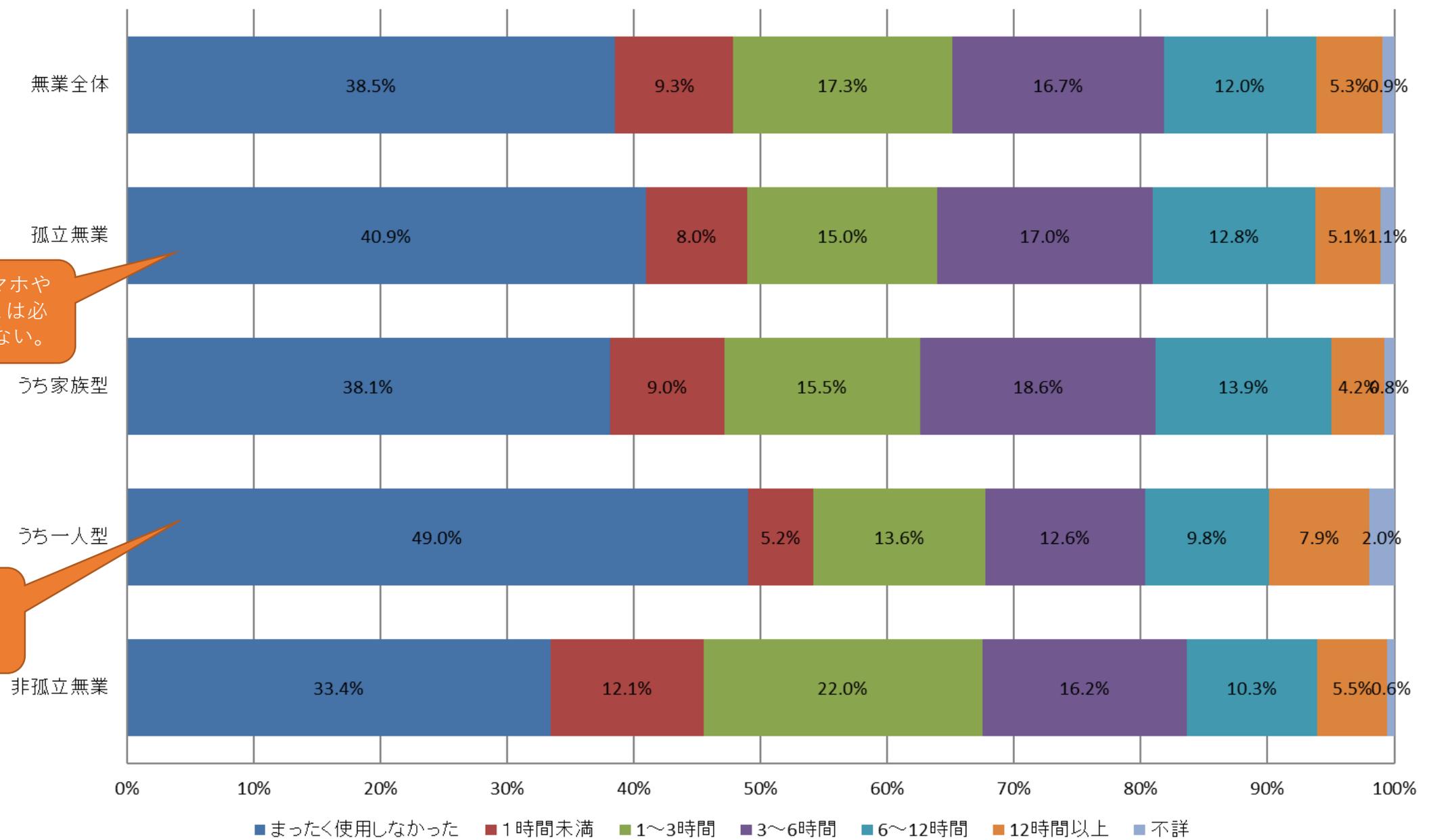
# 未婚無業者の孤立化（主な特徴）

- 以前は男性の方がSNEPになりやすかったが、性差はなくなる。
- 以前は中学卒（高校中退含む）がSNEPになりやすかったが、むしろ大学卒がSNEPになりやすい傾向も。
- 中高年の未婚無業者ほどSNEPになりやすい傾向が再び強まる。
- 受診・療養に時間を費やしている未婚無業者は、SNEPに「なりにくい」傾向は変わらず。

	2016年		2011年	
	孤立無業=1、非孤立無業=0		孤立無業=1、非孤立無業=0	
	限界効果	標準誤差	限界効果	標準誤差
男性	0.0235	0.0179	0.0725	0.0182 ***
20～24歳	-0.1369	0.0383 ***	-0.0613	0.0340 *
25～29歳	-0.0857	0.0357 **	-0.0326	0.0326
30～34歳	-0.0609	0.0355 *	-0.0262	0.0341
40～44歳	0.0079	0.0345	0.0293	0.0346
45～49歳	-0.0154	0.0358	0.0264	0.0373
50～54歳	-0.0409	0.0385	-0.0244	0.0412
55～59歳	-0.0178	0.0399	-0.0692	0.0404 *
中学卒	0.0350	0.0248	0.0820	0.0238 ***
高専・短大・専門卒	0.0441	0.0222 *	-0.0260	0.0260
大学卒	0.1022	0.0222 ***	0.0285	0.0249
大学院卒	0.0819	0.0634	-0.1234	0.0945
学歴不詳・在学したことがない	0.1087	0.0677	0.1413	0.0913
100万円未満	-0.0845	0.0493 *	-0.0318	0.0459
100～199万円	-0.0096	0.0444	-0.0154	0.0440
200～299万円	-0.0151	0.0436	0.0123	0.0429
300～399万円	0.0228	0.0437	0.0468	0.0423
400～499万円	0.0442	0.0441	0.0188	0.0451
500～599万円	-0.0317	0.0507	0.0132	0.0477
700～799万円	-0.0167	0.0573	-0.0490	0.0566
800～899万円	-0.1671	0.0651 ***	0.0309	0.0579
900～999万円	-0.0828	0.0726	-0.0088	0.0662
1000～1499万円	-0.0658	0.0627	-0.0666	0.0559
1500万円以上	-0.1563	0.1021	0.0417	0.0884
不詳	-0.0660	0.0682	-0.0005	0.0722
家族の自宅介護あり	-0.0317	0.0356	0.0431	0.0342
受診・療養時間あり	-0.1390	0.0196 ***	-0.0594	0.0300 **
大都市（100万人以上）	-0.0079	0.0303	-0.0014	0.0291
小都市（5～15万人）	0.0150	0.0208	-0.0245	0.0217
小都市（5万人未満）	0.0606	0.0286 **	0.0487	0.0301
町村	-0.0181	0.0295	-0.0043	0.0298
調査日1日だけ雨	-0.0041	0.0207	-0.0322	0.0221
調査日2日とも雨	-0.0067	0.0332	0.0458	0.0261 *
調査日の天候不明	0.0391	0.0317	0.0131	0.0553
調査日が土、日曜日	0.0745	0.0209 ***	0.0107	0.0253
調査日のいずれか一日が土曜もしくは日曜	0.0208	0.0238	0.0372	0.0241
標本数	2,880		3,106	
擬似決定係数	0.0453		0.0217	

注：プロビット推定の結果。リファレンスグループは「女性」「35～39歳」「高校卒」「600～699万円」「調査日に雨降らず」「調査日はすべて平日（月曜から金曜）」「中都市（15～100万人未満）」。  
\*、\*\*、\*\*\*は、それぞれ10%、5%、1%有意水準を示す。

# スマートフォン・パソコンの使用時間(2日間合計)



SNEPはスマホやPCに熱心とは必ずしもいえない。

一人型の約半数は使用せず

# スマートフォン・パソコンの利用時間が長い20～59歳未婚無業者（主な特徴）

- 年齢が若い人々ほど長い
- 高学歴の人々ほど長い
- 家族を自宅で介護している人々ほど長い
- 町村部の居住者は都市居住者より短い
- これらをコントロールしてもSNEPは利用時間が短い

## 行動の種類別一日あたり平均時間(2016年)

行動の種類別時間(分)	60歳未満未婚 無業全体	孤立無業			非孤立無業
			うち家族型	うち一人型	
睡眠	501.1	506.6	501.6	520.9	489.4
身の回りの用事	94.7	89.6	91.1	85.4	105.5
食事	97.3	97.1	100.1	88.5	97.8
家事	61.3	70.0	76.0	53.0	42.8
介護・看護	7.2	5.8	7.5	1.3	10.1
買い物	29.4	30.1	29.5	32.0	27.9
移動	29.3	20.4	22.0	15.8	48.0
 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	198.9	215.1	210.4	228.6	164.7
休養・くつろぎ	147.0	157.4	149.2	180.5	125.2
学習・研究（学業以外）	28.0	26.7	23.6	35.4	30.8
趣味・娯楽	128.0	136.0	135.6	137.0	111.1
スポーツ	8.9	7.7	7.8	7.3	11.5
ボランティア・社会参加活動	1.8	0.6	0.3	1.4	4.4
受診・治療	17.3	16.8	19.1	10.0	18.5
その他	48.1	40.9	45.4	28.3	63.2

注) 時間は2日分の集計時間の2分の1を生活時間編の集計用乗率(2日間の乗率の和を7で割った値)で加重平均した値。

## ふだんの健康状態と孤立の関係(2016年)

非孤立無業との比較	「健康状態が良くない」と回答		
	限界効果	標準誤差	
孤立無業	0.0481	0.0183	***
一人型孤立無業	0.0469	0.0287	*
家族型孤立無業	0.0497	0.0196	**

SNEPは健康でないと回答する傾向が強い。

注: ふだんの健康状態について「良くない」「あまり良くない」を1、「良い」「まあ良い」「ふつう」を0とした被説明変数に関してプロビットモデルにより推定した結果。他に説明変数として性別、年齢、教育、世帯収入、家族の自宅での介護の有無、都市規模をコントロール。\*、\*\*、\*\*\*は10、5、1%水準で統計的に有意であることを示す。

## 就業に向けた活動・希望・学習の規定要因(2016年)

非孤立無業との比較	求職活動 (あり=1、それ以外=0)			就業希望 (あり=1、それ以外=0)			仕事につくための学習 (あり=1、なし=0)		
	限界効果	標準誤差		限界効果	標準誤差		限界効果	標準誤差	
孤立無業	-0.0721	0.0212	***	-0.0385	0.0198	*	-0.0485	0.0123	***
一人型孤立無業	-0.0575	0.0303	*	-0.0235	0.0298		-0.0390	0.0115	***
家族型孤立無業	-0.0759	0.0221	***	-0.0431	0.0209	**	-0.0449	0.0114	***

注:他に説明変数として性別、年齢、教育、世帯収入、受診・療養時間の有無、家族の自宅での介護の有無、都市規模をコントロール。\*、\*\*、\*\*\*は10、5、1%水準で統計的に有意であることを示す。

SNEPが就業に消極的になる傾向が一貫して存在。特に家族型が消極的。

# ポイント

- 2016年時点でも155万人の孤立無業が存在
- 40代と50代の孤立無業が増加し続ける傾向
- 孤立無業は直接的な人的交流以外にスマホやPCの利用も少ない
- 孤立無業は健康面で課題を抱える場合も多い
- 孤立無業は就業に対して消極的な傾向が依然として存在